
2007年12月期 中間決算業績概要

For-side.com Co., Ltd.

2007年8月28日

2007年2月28日に発表いたしました『中期再生プラン』において、
今期より単体事業に特化することを方針としております。
本資料の『2007年12月期中間決算業績概要』では
単体事業のご報告をメインにご説明させていただきます。

—免責事項について—

本資料に記載されております計画や見通しは本資料の作成時点において入手可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。実際の業績はかかるリスク及び不確実性により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。かかるリスク及び不確実性には、市場リスク、日本円と米ドルとその他外貨との為替レートの変動、その他情報通信関連事業を取り巻く様々なリスク及び当社が継続して業務を展開する上で不可避の潜在的リスクである経済状況、サービスの成否、他社との競争状況などが含まれますが、これらに限定されるものではない不確実性が含まれていることをご留意ください。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は株式会社フォーサイド・ドット・コムに属します。

2007年12月期中間決算の業績(単体) (2007年1月1日～2007年6月30日)



経営成績サマリー

(単位:百万円)

	06. 中間	07. 中間	前年同期比		主要因
			増減	増減率	
売上高	1,492	1,200	-292	-19.6%	[売上構成比率の変化] ①コンテンツ事業⇒2G売上は減少を続けている中、3Gの売上は1月から6月にかけて210%成長。 ②マスターライセンス事業⇒ソフト投資の絞込み(グラビアでは有名人気アイドル等)により、収益率を重視したこと及び製作委員会方式の取り組みの売上高が一部営業外収益に計上されたことによる減少。 ③コンテンツ事業は、売上は成長しているものの単体事業全体では前年比約19%減。
売上総利益 (売上総利益率)	529 35.5%	816 68.0%	+287	+54.3%	①上記、売上構成比率の変化により、原価率の減少。 ②原価削減。 ③2G不採算サイトの撤退により、利益率上昇。
営業利益 (営業利益率)	△ 1,166 -78.2%	△ 173 -14.4%	+993	-	①事務所減床。 ②広告宣伝費合理化。 ③人件費削減。 ④役員報酬カット。 ⑤子会社管理コスト減少。
経常利益 (経常利益率)	△ 1,022 -68.5%	△ 134 -11.2%	+888	-	①営業利益回復による。 ②製作委員会分配金の営業外収益の計上による。 ③為替差益等計上。
純利益 (純利益率)	△ 21,808 -	879 73.3%	+22,687	-	Zingy, Inc. の買収金額の一部をアーンアウト(成果によって発生するインセンティブ)契約による未払い金について協議の結果、金額の一部を支払う必要がなくなった為、特別利益(1,008百万円)が発生。

※記載数値は表示単位未満を四捨五入して表示しております。

四半期の業績推移(2007年1Q~2Q)



- ◆原価：1Q、2Qで資産化したソフトをより厳格に見積り、半期分の償却費を2Qにおいて一括計上に振り分けたことによる。
- ◆販売費及び一般管理費：広告戦略等の効率的な運営成果により大幅な削減を実現。
- ◆経常利益：4月以降、単月の黒字化を達成。

(単位:百万円)

	07. 1Q	07. 2Q	増減	中間合計
売上高	600	600	-	1,200
原価	177	207	+30	384
売上総利益 (売上総利益率)	423 70.5%	393 65.5%	-30	816 68.0%
販売費及び一般管理費	546	442	-104	988
営業利益 (営業利益率)	△123 -20.5%	△50 -8.3%	+73	△173 -14.4%
経常利益 (経常利益率)	△187 -31.2%	53 8.8%	+240	△134 -11.2%
純利益 (純利益率)	112 18.7%	767 127.8%	+655	879 73.3%

※記載数値は表示単位未満を四捨五入して表示しております。

四半期毎の業績推移(2006年1Q～2007年2Q)



- ◆売上高：①コンテンツ事業の3Gサイトは成長しているものの、2G不採算サイトを積極的に撤退したことによる。
②マスターライセンス事業、パッケージに関しては、製作委員会方式の取り組みの売上高が一部営業外収益に計上されたことによる。
③マスターライセンス事業、ノンパッケージに関しては、取引先の拡大に向けた体制整備の遅れによる。
- ◆原価：製造等の管理の精度の向上により大幅に原価を抑制。(06'2Q対比60%削減)
- ◆販売費及び一般管理費：コア人材による運営、広告戦略等の効率化により大幅な削減実現。(06'2Q対比48%削減)
- ◆経常利益：前年同期(06'2Q)と比較して+770百万円回復。

(単位:百万円)

	2006年					2007年	
	1Q	2Q	3Q	4Q	5Q	1Q	2Q
売上高	768	724	649	645	340	600	600
売上原価	444	519	419	418	379	177	207
売上総利益 (売上総利益率)	324 42.2%	205 28.3%	230 35.4%	228 35.3%	△40 -11.8%	423 70.5%	393 65.5%
販売費及び一般管理費	844	850	803	821	790	546	442
営業利益 (営業利益率)	△520 -67.7%	△646 -89.2%	△572 -88.1%	△593 -91.9%	△830 -244.1%	△123 -20.5%	△50 -8.3%
経常利益 (経常利益率)	△305 -39.7%	△717 -99.0%	△268 -41.3%	△381 -59.1%	△547 -160.9%	△187 -31.2%	53 8.8%

※記載数値は表示単位未満を四捨五入して表示しております。

※06年は変則決算により、14ヶ月分の数値となるため、5Qは2ヶ月分の数値となります。

貸借対照表トピック(2006年12月期末対比)



◆負債：借入金の返済により有利子負債なし

◆投資その他の資産：子会社の株式譲渡(iTouch)による

(単位:百万円)

	06. 期末	07. 中間	期末比
流動資産	7,555	10,542	+2,987
(内:現預金)	696	8,588	+7,892
有形・無形固定資産	108	143	+35
投資その他の資産	9,024	1,896	-7,128
資産合計	16,688	12,581	-4,107
負債	8,156	3,171	-4,985
(内:借入金)	3,515	0	-3,515
純資産	8,532	9,411	+879
負債・純資産合計	16,688	12,581	-4,107

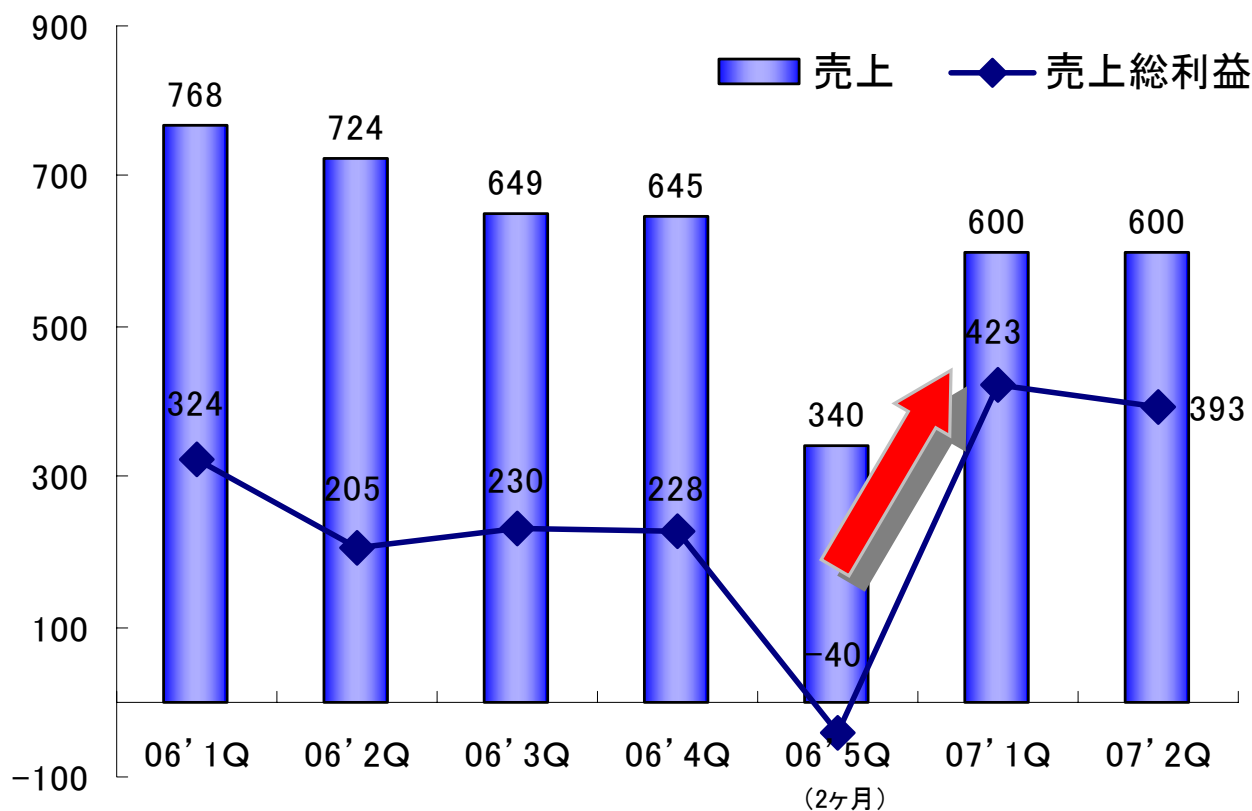
※記載数値は表示単位未満を四捨五入して表示しております。

四半期毎の売上・売上総利益推移

- ◆売上構成比率の変化 (P2単体売上主要因参照) により、原価率の減少
- ◆原価削減
- ◆2G不採算サイトの撤退により、利益率上昇

今期、売上総利益が大幅に改善

(単位:百万円)

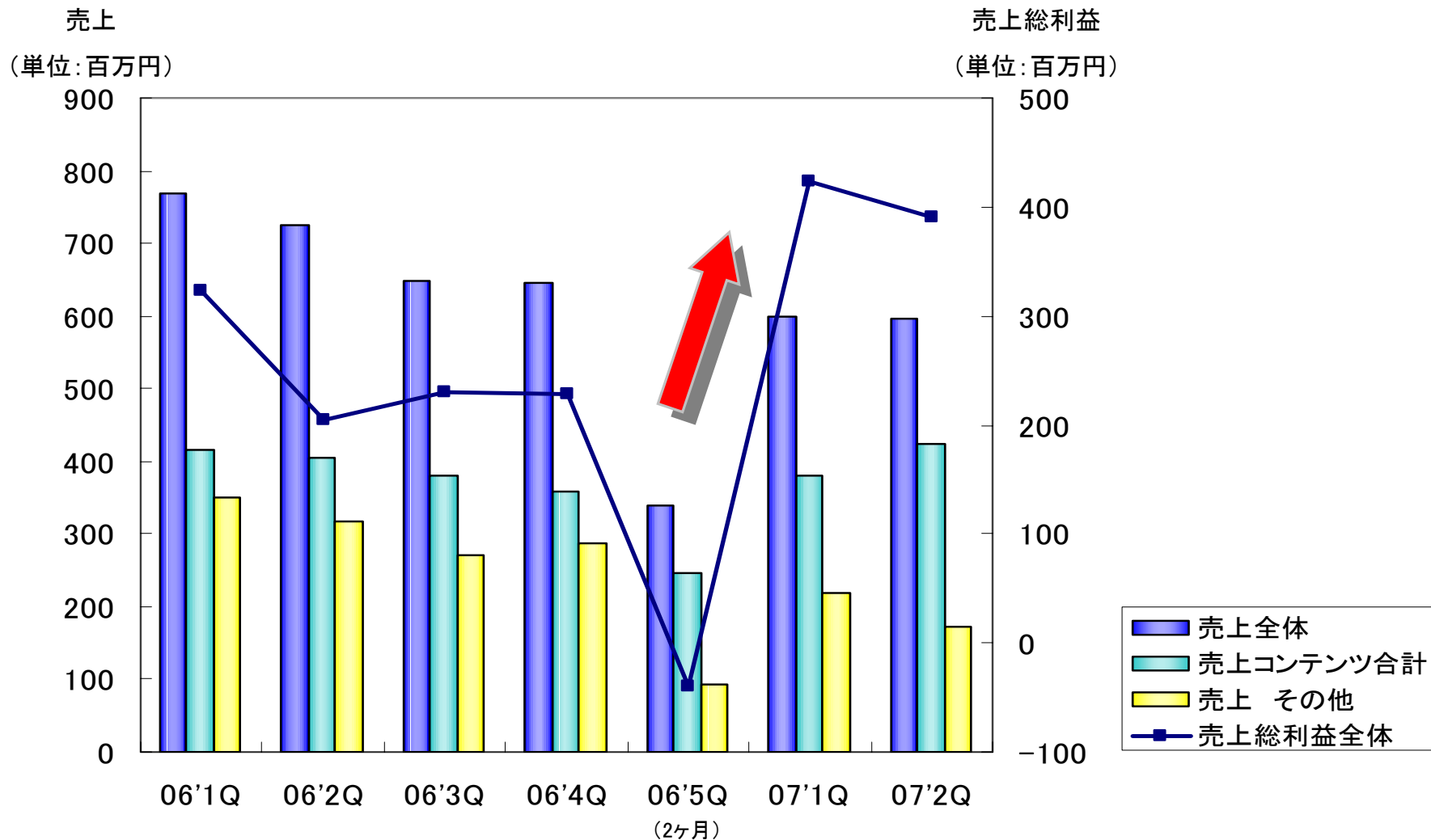


※記載数値は表示単位未満を四捨五入して表示しております。
※06年は変則決算により、14ヶ月分の数値となるため、5Qは2ヶ月分の数値となります。

四半期毎の売上・売上総利益推移の内訳(各事業)



◆コンテンツ事業の成長により売上総利益は大幅増



※記載数値は表示単位未満を四捨五入して表示しております。

※06年は変則決算により、14ヶ月分の数値となるため、5Qは2ヶ月分の数値となります。

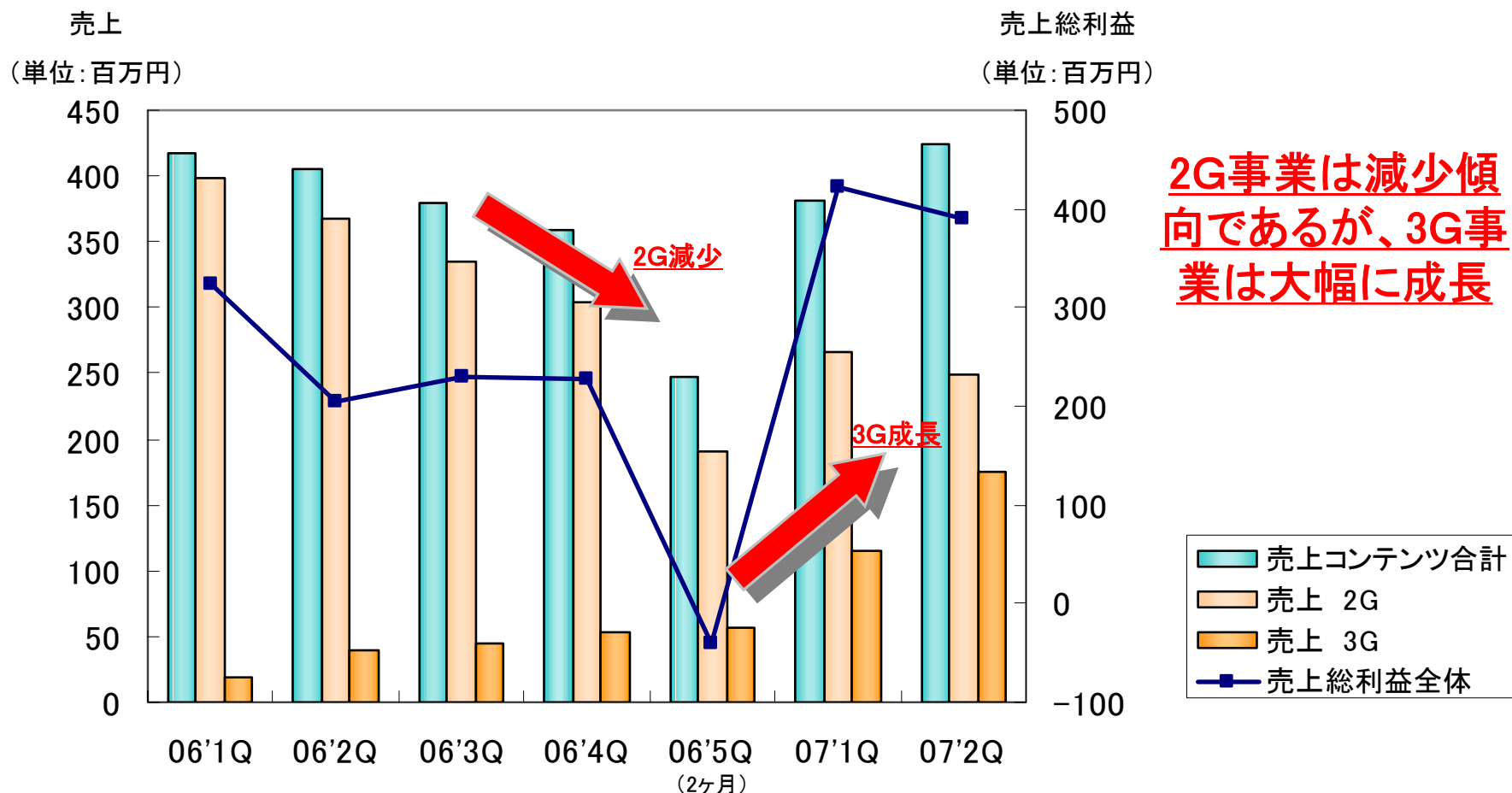
四半期毎のコンテンツ事業売上・売上総利益推移



◆コンテンツ事業(B2C事業)では、
売上構成が2Gから3Gへ大きくシフト



リッチコンテンツ配信により、
今後、売上成長を目指す



2G事業は減少傾向であるが、3G事業は大幅に成長

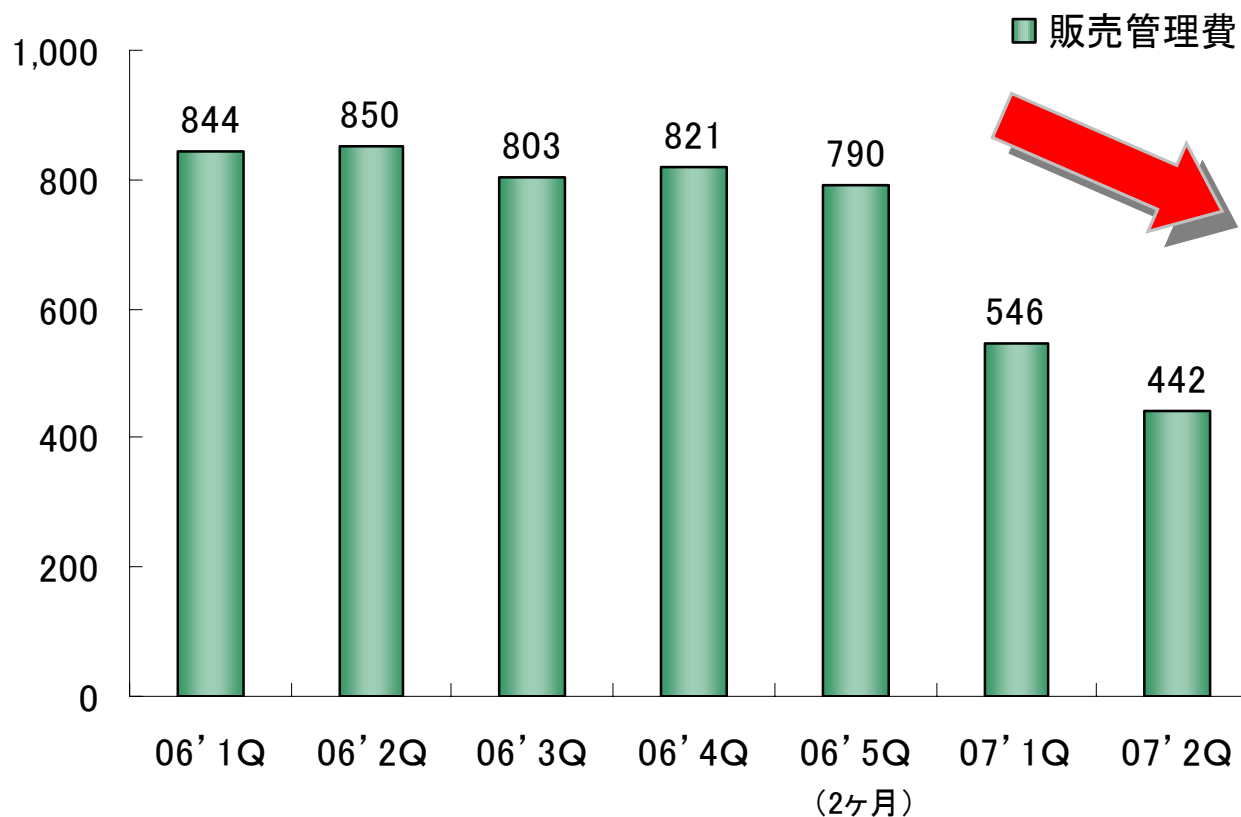
※記載数値は表示単位未満を四捨五入して表示しております。
 ※06年は変則決算により、14ヶ月分の数値となるため、5Qは2ヶ月分の数値となります。

四半期毎の販売管理費推移

- ◆事務所減床
- ◆人件費削減
- ◆子会社管理コスト減少
- ◆広告宣伝費合理化
- ◆役員報酬カット

今期、販売管理費を大幅に削減

(単位:百万円)



※記載数値は表示単位未満を四捨五入して表示しております。

※06年は変則決算により、14ヶ月分の数値となるため、5Qは2ヶ月分の数値となります。

2007年12月期 業績予想に対する実績(単体)



- ◆売上高： ①コンテンツ事業の3G商材は成長しているものの、2G不採算サイトを積極的に撤退したことによる。
②マスターライセンス事業、パッケージに関しては、製作委員会方式の取り組みの売上高が一部営業外収益に計上されたことによる。
③マスターライセンス事業、ノンパッケージに関しては、取引先の拡大に向けた体制整備の遅れによる。
- ◆営業利益： 収益性の向上、原価削減、販管費削減により予算に対して上ぶれ。
- ◆経常利益： 収益性の向上、原価削減、販管費削減により予算に対して上ぶれ。4月より単月の黒字化を達成。
- ◆純利益： Zingy,Inc. の買収金額の一部をアーンアウト(成果によって発生するインセンティブ)契約による未払い金について協議の結果、金額の一部を支払う必要がなくなった為、特別利益(1,008百万円)が発生。

(単位:百万円)

	1Q			2Q			中間合計			3Q	4Q
	予想	実績	差異	予想	実績	差異	予想	実績	差異	予想	予想
売上高	651	600	-51	782	600	-182	1,433	1,200	-233	706	776
営業利益	△ 211	△ 123	+88	△ 75	△ 50	+25	△ 286	△ 173	+113	△ 92	△ 72
経常利益	△ 211	△ 187	+24	△ 75	53	+128	△ 286	△ 134	+152	△ 68	△ 49
純利益	△ 211	112	+323	△ 75	767	+842	△ 286	879	+1,165	△ 68	△ 49

※海外子会社の非連結化の動向は考慮していません。

中間決算においては利益予想値を大幅に達成しており、下期(3Q、4Q)においては来期計画の達成に向けた取り組みを実行いたします。